

2021.2.27 令和2年度 みやぎ心のケアフォーラム

これまでの被災者支援への総括と 地域精神保健福祉に対する展望

みやぎ心のケアセンター 福地 成

narufuku@za.cyberhome.ne.jp

自己紹介

福地成 ふくちなる

- 元々は東京都（板橋区）出身です
- 青森、北海道、宮城と移動しています
- 小児科 ⇒ 精神科 ⇒ 児童精神科
- 疫学および公衆衛生学を研究していました
- 東日本大震災後に設立された、復興に特化した
■ 『みやぎ心のケアセンター』へ勤務しています



<自己紹介HPへ>

お話しの流れ

1. こころのケアセンターについて
2. 当センターの活動からみえること
3. 回復フェーズごとの戦略
4. 最後に



こころのケアセンターについて

心のケアセンター, Disaster Mental Health Care Center

1995年1月 阪神・淡路大震災（マグニチュード7.3）

- 1995年6月に兵庫県こころのケアセンター開設
- 組織の再編成をして、研究機能や診療機能を併設して、現在でも稼働している

2004年10月 新潟県中越地震（マグニチュード6.8）

- 2005年8月に新潟県精神保健福祉協会こころのケアセンター開設
- 10年間の活動を経て、2015年3月で終結した

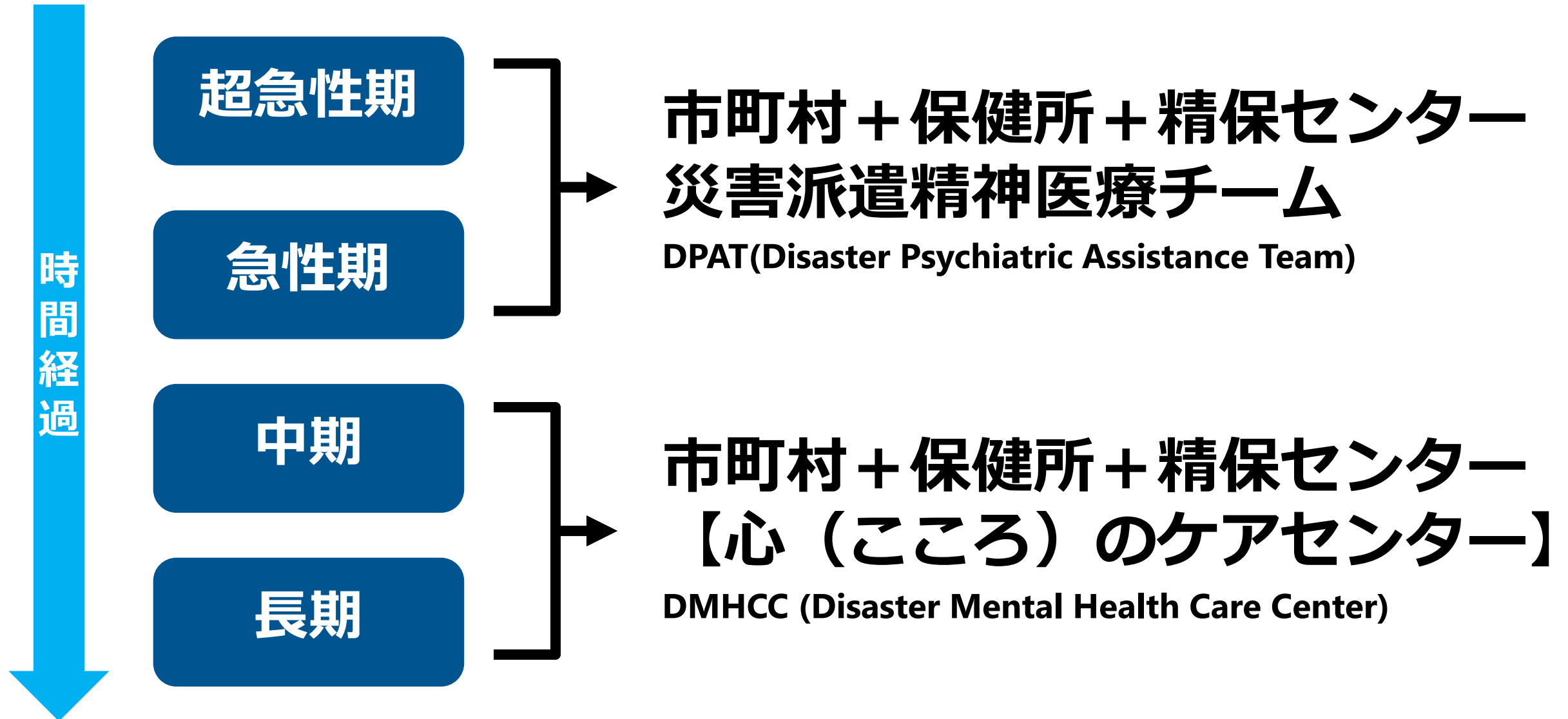
2011年3月 東日本大震災（マグニチュード9.0）

- 2011年12月にみやぎ心のケアセンター開設
- 2012年2月に岩手県こころのケアセンター開設
- 2012年2月にふくしま心のケアセンター開設

2016年4月 熊本地震（マグニチュード7.3）

- 2016年10月 熊本こころのケアセンター開設

回復時期ごとの役割



当センター活動の6本柱

被災者に対する精神疾患の予防やメンタルヘルスの改善を目的とした相談・支援

地域住民支援

支援者支援

市町職員や仮設支援員等の支援者を対象とした精神保健活動および心身の健康維持を目的とした支援

メンタルヘルスに関する情報発信および啓発

普及啓発

人材育成

メンタルヘルスに関わる専門職や支援者を対象とした知識の普及と研修

被災地や被災者の状況を把握するための調査

調査研究

各種活動支援

各種団体が運営するイベント等への共催・後援

初任者研修のスライド

チームとしての考え方

多職種チーム Multidisciplinary Team

- 様々な職種のスタッフが協働
- 役割が固定され、職種別の役割分担をする

超職種チーム Transdisciplinary Team

- 様々な職種のスタッフが協働
- ある状況下では、固定した役割を超える
- 全ての職種が、お互いの役割を最低限できるようにする

こっちでいきましょう

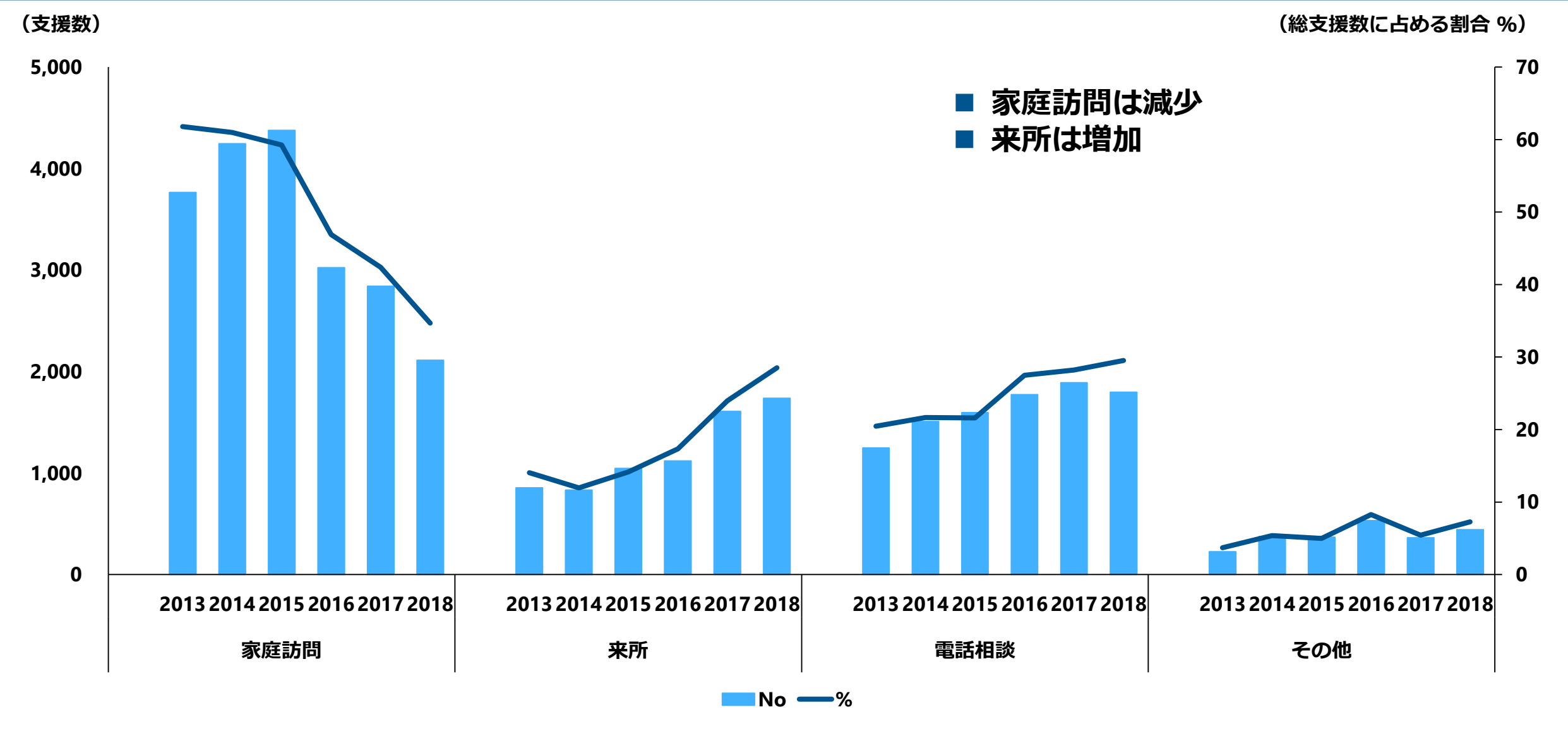
Go to the people. Go to the communities.

対象者の生活している場所へ直接『行く』ことを大事にしています

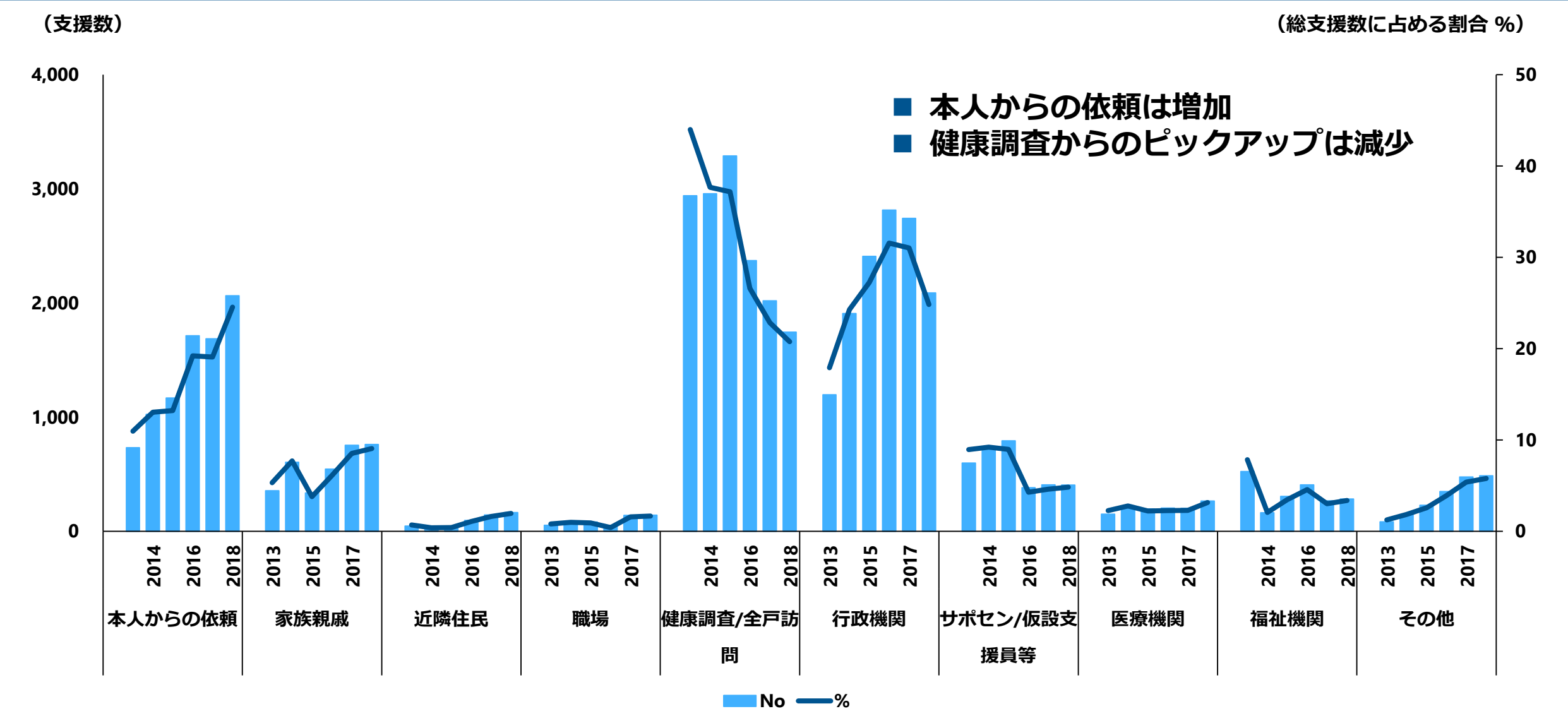


当センターの活動からみえること

支援方法の推移

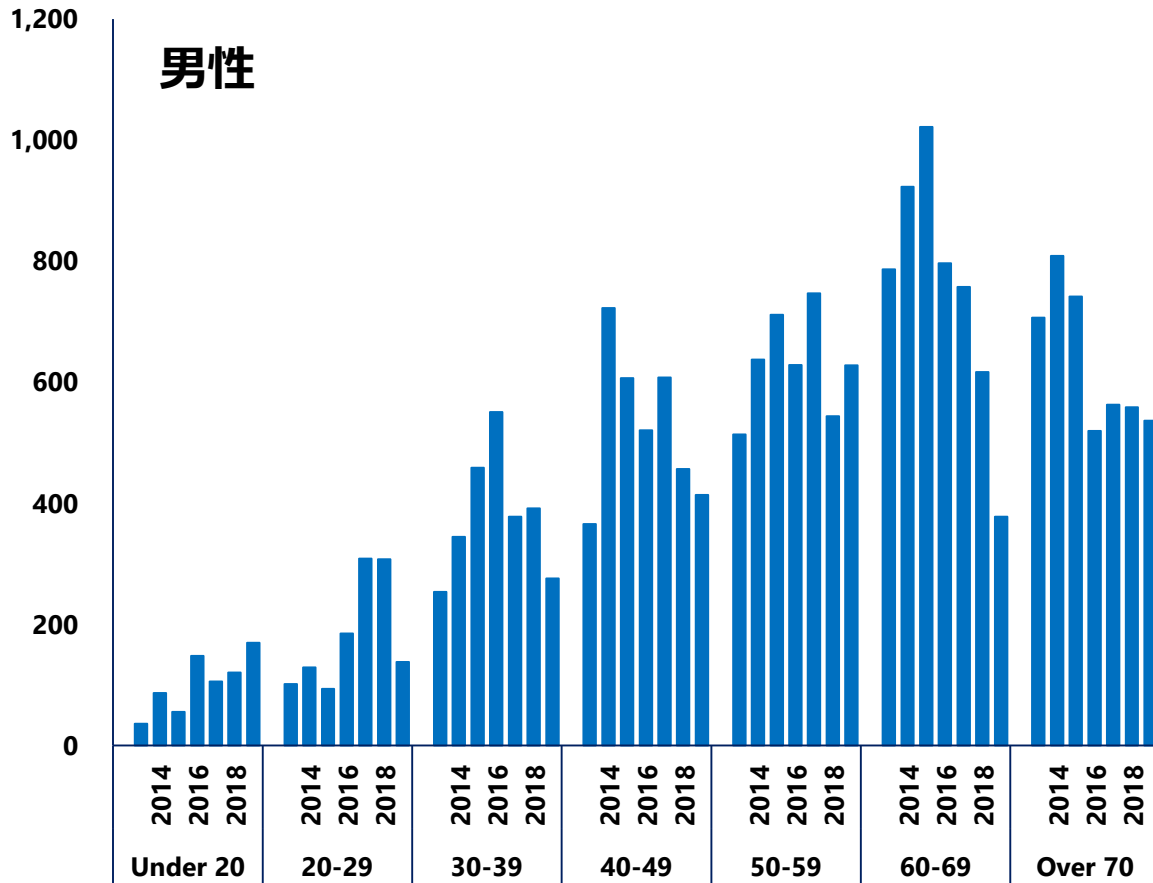


相談経路の推移



年代別・性別の相談者推移

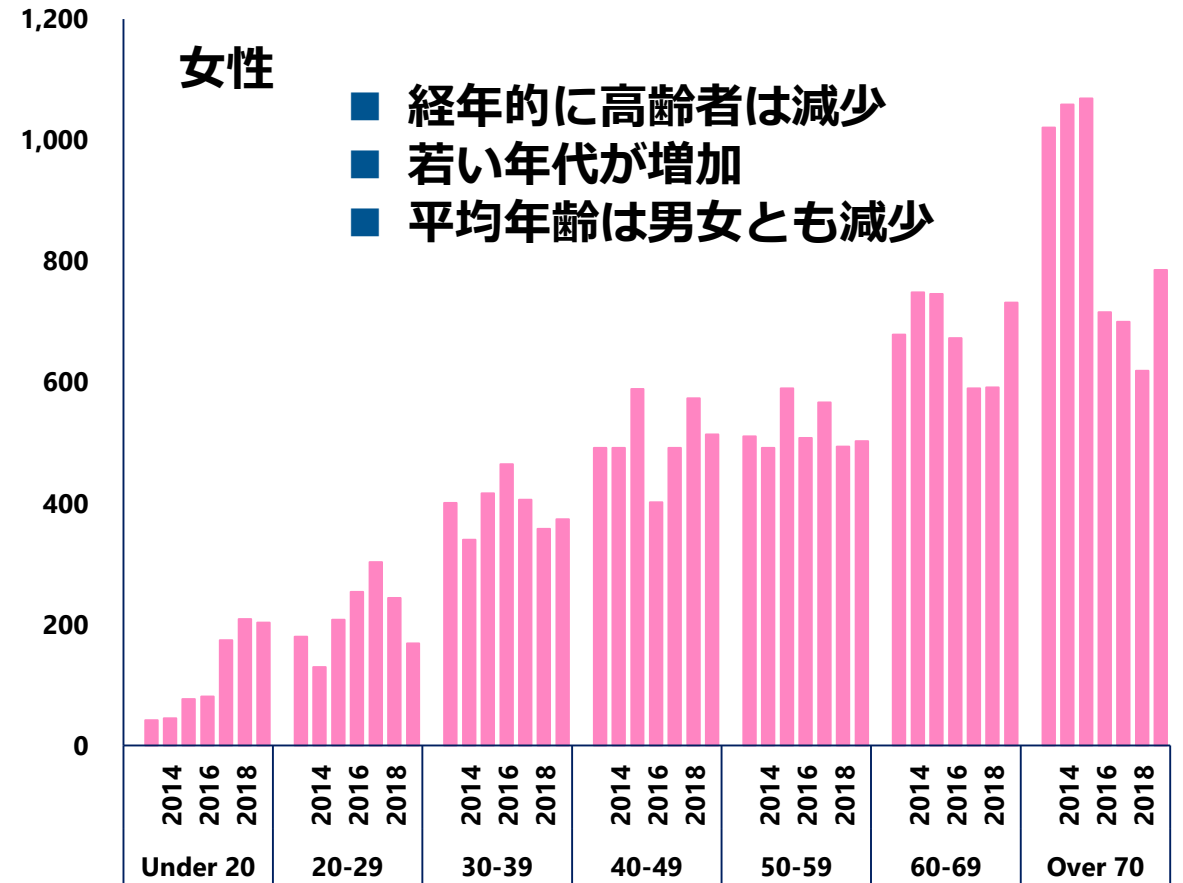
(支援数)



年ごとの平均年齢を比較(ANOVA)

$F = 76.2, p < .001$

2013 > 2014, 2015 > 2016, 2017, 2018



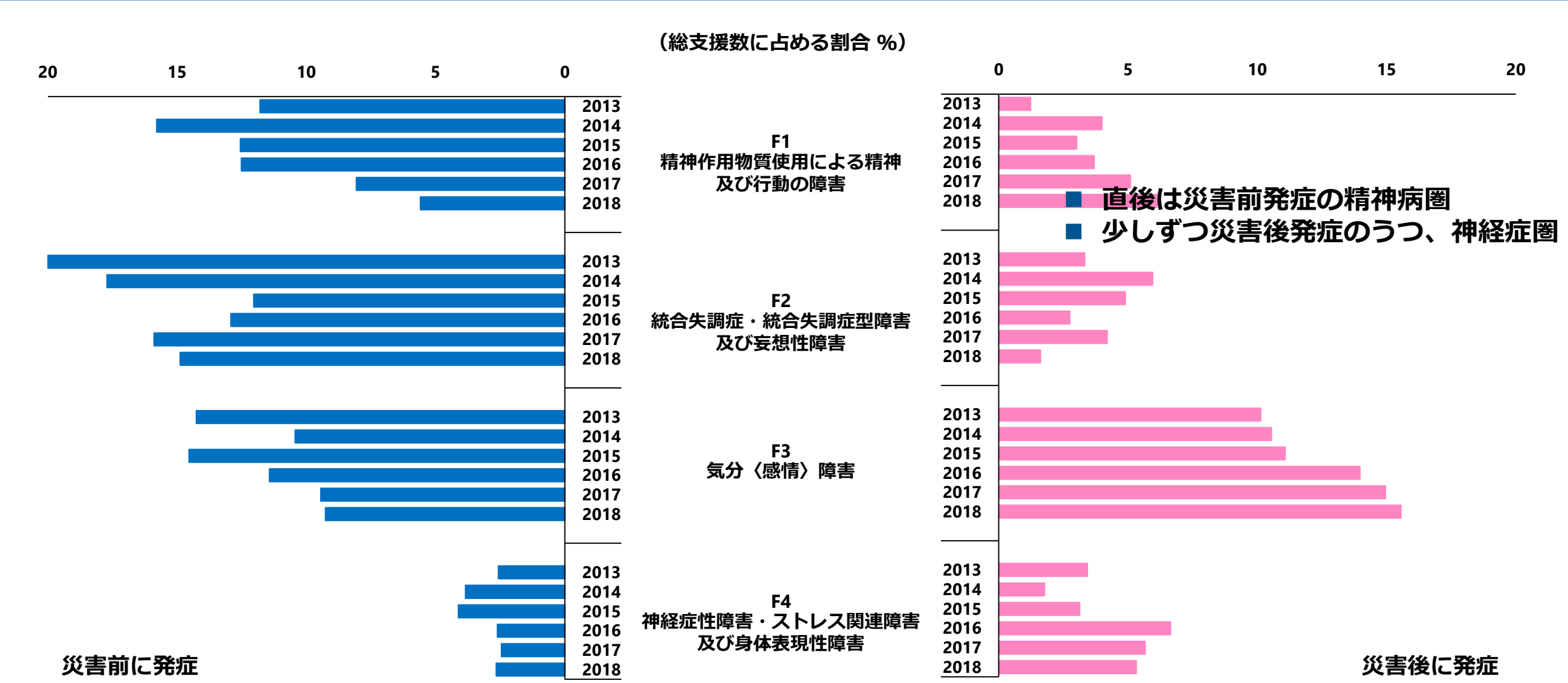
- 経年的に高齢者は減少
- 若い年代が増加
- 平均年齢は男女とも減少

年ごとの平均年齢を比較(ANOVA)

$F = 80.3, p < .001$

2014 > 2013, 2015 > 2016 > 2017, 2018

疾患分類および発症時期ごとの対象者割合



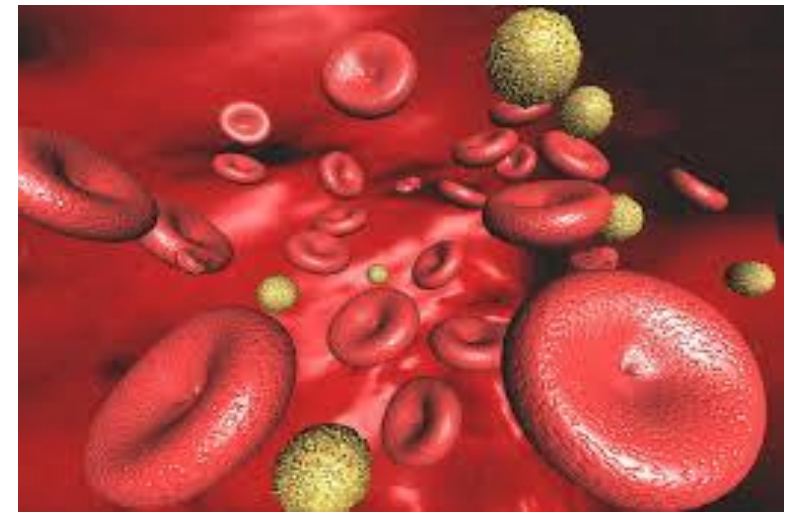
回復フェーズごとの戦略

集まる・固まる

危機的な状況を乗り越えるために生き物は自然と凝集する



- プレハブ仮設住宅
- 地域の各種サロン
- 話し合いや会議
- 各種イベント など



人が集まる仕組み



各種サロン



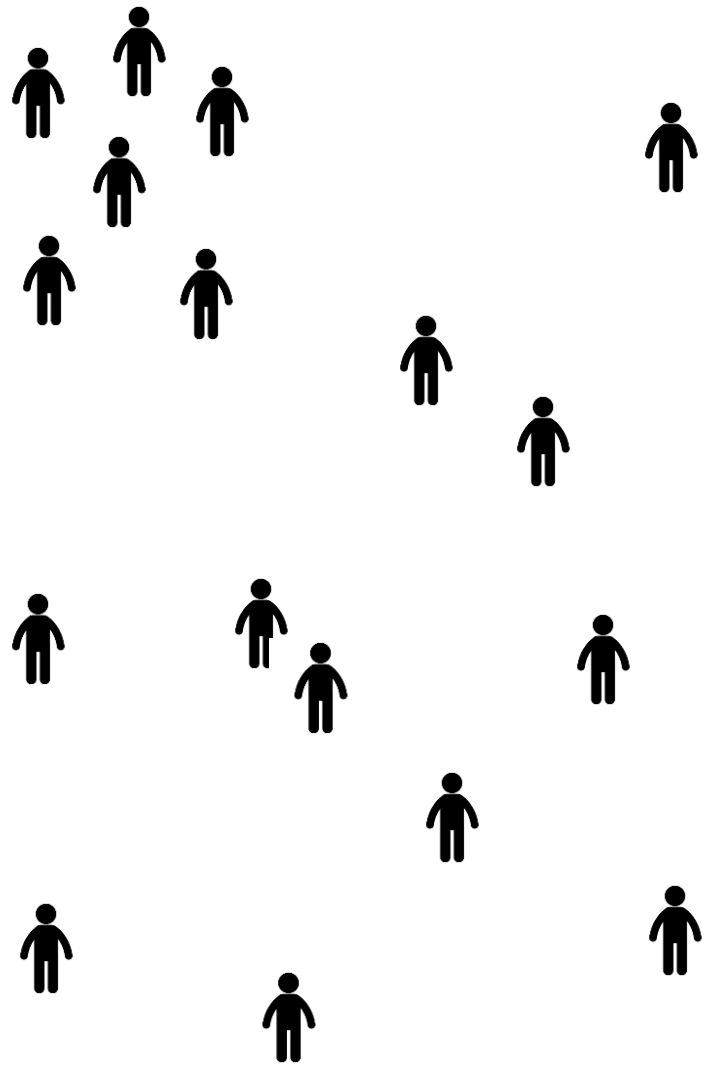
子どもキャンプ



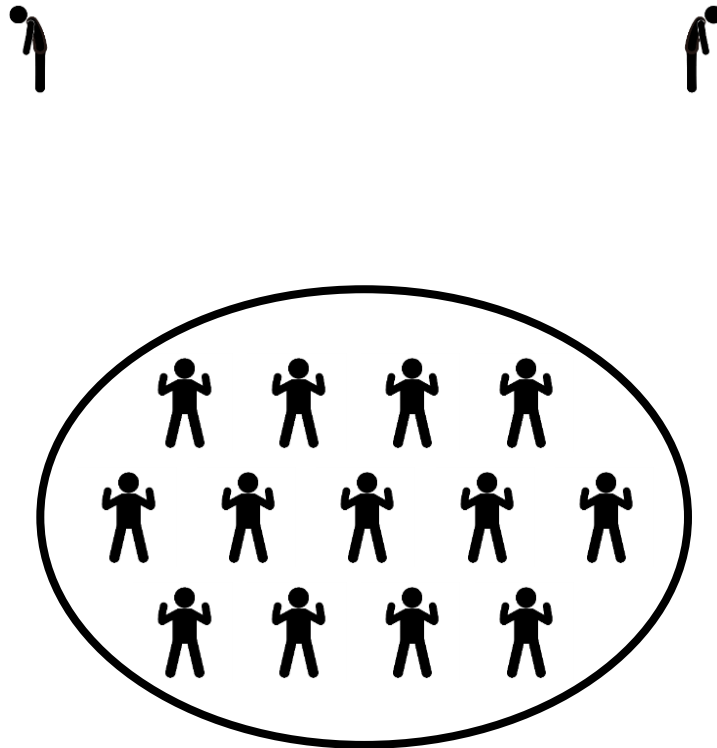
農作業



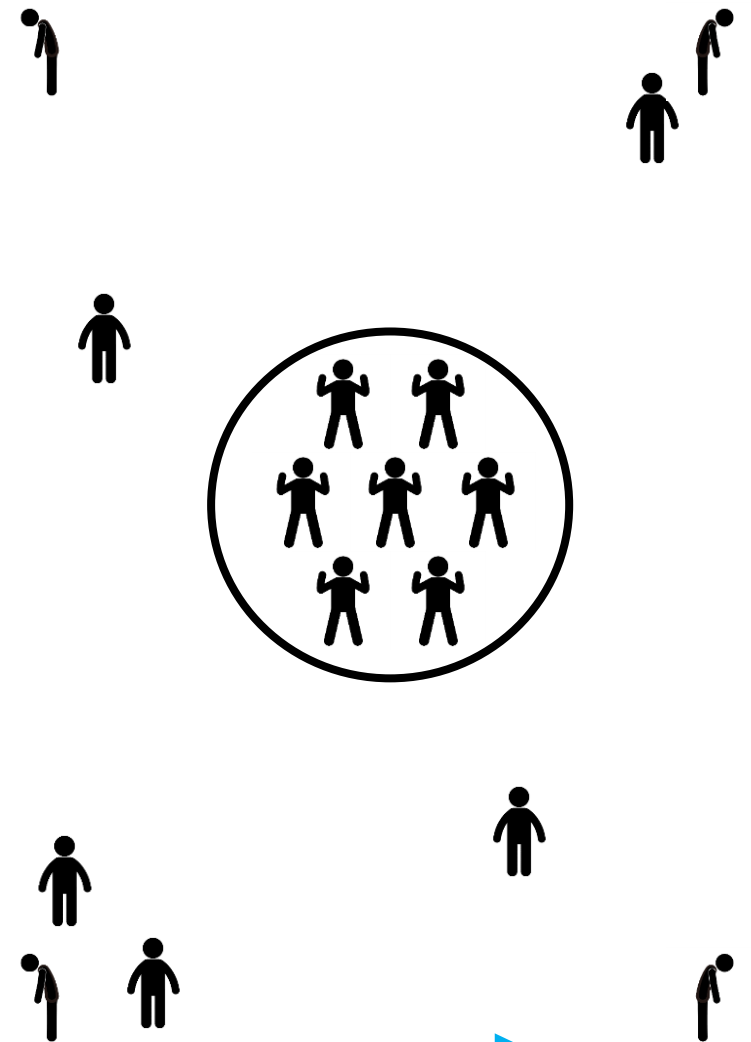
作品展



災害前



災害直後



中長期

二つのアプローチ



むしめがねアプローチ（ハイリスクアプローチ）

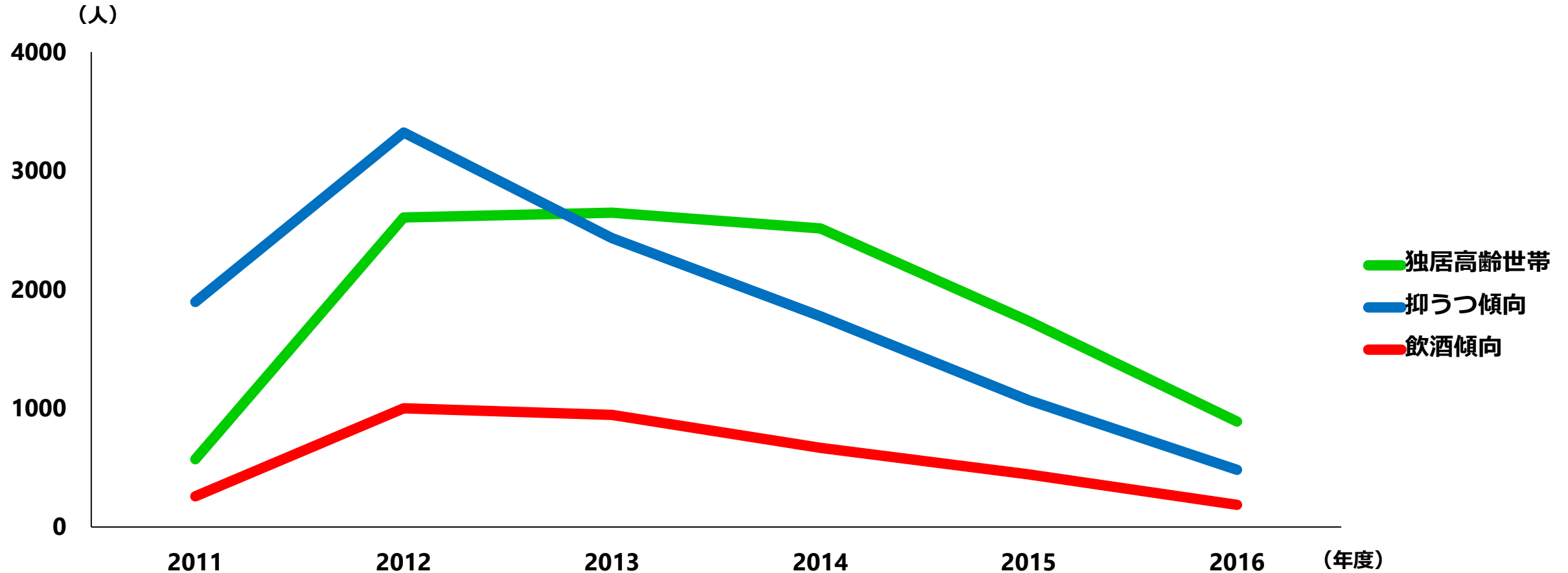
- 危険度がより高い者に対して、その危険度を下げるよう働きかけをして病気を予防する方法
- **危険が高い人たちを見つけて**資源（人やお金）を投入する
- 例：健康診断で腹囲が80cmを超えている人を見つけ、指導する



ふりかけアプローチ（ポピュレーションアプローチ）

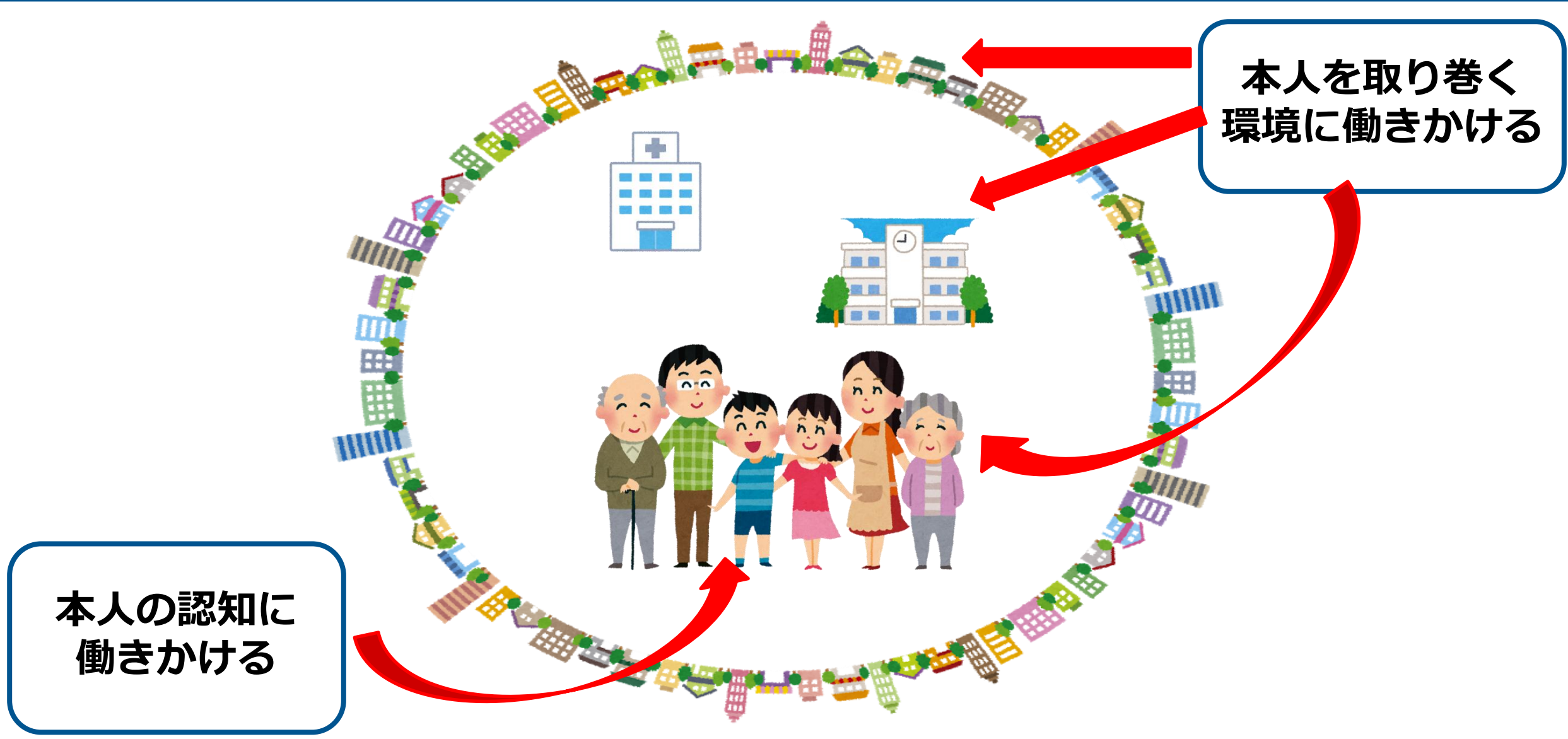
- 集団全体に対して働きかける方法や環境整備のこと
- **集団全体にまんべんなく**、効果的に資源を投入する
- 例：社員食堂の飲み物やデザートの変更

ハイリスク者の推移（宮城県被災者健康調査の結果から）



- ハイリスクとしてピックアップされる対象者も減少していくと考えられる
- 残るハイリスク者に健康調査以外の手法でアプローチをする必要がある
- 医療機関と地域精神保健のつながりが大事

どこに働きかけるのが有効か？



さいごに

まとめ

スクリーニングにより抽出された住民へのアウトリーチが活動の軸になっていた

当センター開設初期はスクリーニングでpick upされた高齢者が多く、時間経過とともに自発的に来所する若年層にシフトしてきていた

回復のフェーズに応じたハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチのバランスが大事

私が考えるこれから大事なこと

分析と戦略



- データの蓄積と分析
- 疫学・公衆衛生学との連携
- 統計学的リテラシーの底上げ

アウトリーチ



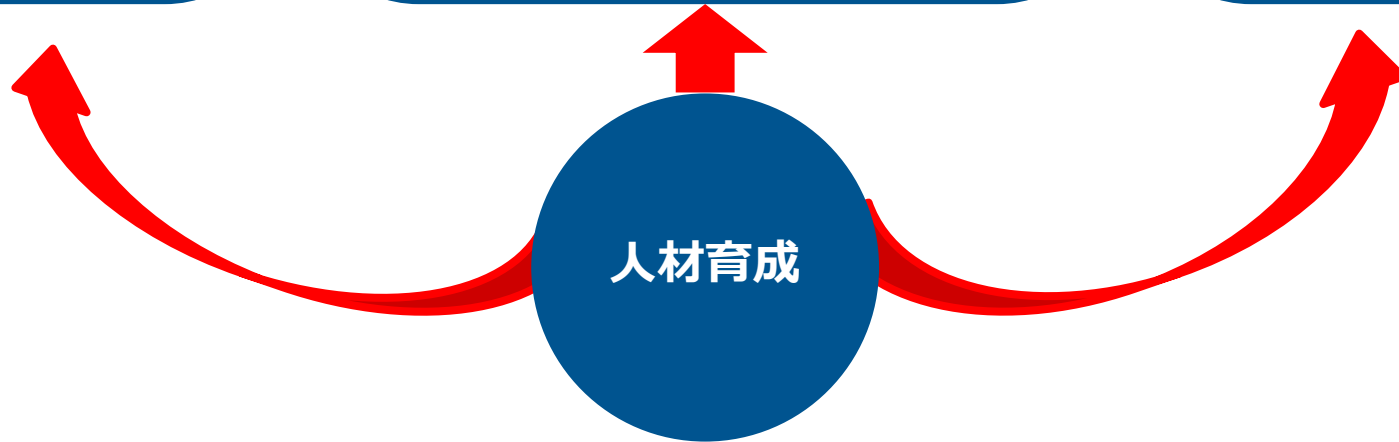
- リスクの高い住民の確認だけではなく、
- 平時から地域につながりをつくる

トラウマ関連の治療



- 時間をかけて傾聴できる体制
- 専門治療（認知行動療法など）

人材育成



ご清聴
ありがとうございました

